

大鹿村議会だより

令和3年10月号(第38号) 令和3年10月15日 発行：大鹿村議会

令和3年9月

大鹿村議会9月定例会

令和3年9月大鹿村議会定例会が9月9日から17日までの9日間の会期で開会されました。今定例会に提案された議案等は、報告2件、付議事件19件、議員発議1件で、すべて原案どおり可決されました。請願・陳情は請願1件、陳情2件で、請願1件は採択となりました。

報告

報告第1号 令和2年度決算に基づく健全化比率の報告について

▼実質赤字比率、連結実質赤字比率とも該当なく、実質公債費比率は0・6%、将来負担比率も該当なく健全です。

報告第2号 専決処分事項の報告について

▼物損事故の損害賠償です。

付議事件

議案第1号 大鹿村手数料徴収条例の一部を改正する条例の制定について

議案第2号 過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措

置法の適用に伴う固定資産税の特例に関する条例の制定について

議案第3号 災害弔慰金の支給等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第4号 令和2年度大鹿村一般会計歳入歳出決算の認定について

議案第5号 令和2年度大鹿村国民健康保険特別会計歳入

歳出決算の認定について

議案第6号 令和2年度大鹿

村立診療所特別会計歳入歳出決算の認定について

議案第7号 令和2年度大鹿村営水道特別会計歳入歳出決算の認定について

議案第8号 令和2年度大鹿村介護保険特別会計歳入歳出

決算の認定について

議案第9号 令和2年度大鹿村後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について

▼令和2年度の決算については「広報おおしか」をご覧ください。

▼ふるさと納税が半減した理由について質問がありました。村へ直接の寄付は減っていないものの、楽天は増減が激しく、昨年は返礼品の主力であるブルーベリーが不作だったことが上げられました。また小中学校の一人1台タブレット端末の活用状況について質問がありました。授業で調べ物等に活用している他、自宅に持ち帰れるようにする準備を進めているそうです。

議案第10号 令和3年度大鹿村一般会計補正予算(第4号)について

▼コミュニティ活動助成金について集会所改修の補助率や上限額を上げる改正が行われるのに伴い300万円の補正。新型コロナウイルスの経済対策として、プレミアム商

品券、飲食店の割引券、国や県の補助対象にならない事業所への特別応援金など商工振興補助金に1286万円、県外の学生支援。鳶ヶ巣沢環境対策事業について熱海の災害を受けて新たな調査が必要となり57万2000円の設計照査委託料。林道赤石線大規模崩落箇所の保安林解除のための分筆測量委託等で1857万9000円。ここも地蔵峠と同様、なかなか先が見えない状態です。向山牧場の水源工事300万円など。

議案第11号 令和3年度大鹿村国民健康保険特別会計補正予算(第1号)について

議案第12号 令和3年度大鹿村立診療所特別会計補正予算

(第2号)について

議案第13号 令和3年度大鹿

村営水道特別会計補正予算(第2号)について

議案第14号 令和3年度大鹿村介護保険特別会計補正予算(第1号)について

議案第15号 令和3年度大鹿村後期高齢者医療特別会計補

一般質問



伊波ゆかり 議員

*大鹿保育所の休所日について 土曜開所を求める

質問 大鹿保育所の完全休所日を減らし、土曜日の開所を求める。

近隣の市町村では、多くの保育所で毎週土曜日も開所しているが、大鹿保育所では開所していない。そして、要項にある休日以外に、お盆に3日間と4月1日が完全休所日になり、職員研修や家庭訪問での半日休所の日がある。先日、保護者の方から完全休所日を減らすよう、また観光協会からも土曜日も開所をしてもらえよう、要望があった。大鹿保育所では完全休所日を設け、土曜日に開所しない理由はなぜか。

保育士の人員確保に努める

村長 保育所については、大

鹿村立保育所設置条例及び管理規程に従い、設置及び運営されております。

少子高齢化、人口減少という本村の課題解決のためには、子育て環境をより手厚くし、それにより移住定住促進を図る必要があります、最大限の対応を取らなければならないと考えています。

またその一方で、保育士の労働者としての権利も守られなければならない。

絶対的に人員が足りていませんので、代替保育士を募集し、人員の確保に努めてまいりたいと思います。

現状とれる対応として、年度末及び正月明けのうち、一部の特別保育を取りやめ、通常保育とする。そして、4月1日を完全休所ではなく、午前中開所、午後は休所とさせていただきますと思います。

質問 長期的に見ると、保育士を目指す学生に、無利子で就学支援をするなど、今後の保育士確保に向けて、対策が必要なのではないか。

また、NPOの幼児一時預

かりは、これ以上は対応できないと聞いているが、どうしても必要な時にNPOで対応可能な場合に限り、村で保育料を負担するなど、働く保護者への支援も必要だ。村長はどのようにお考えか。

村長 人材育成という面で、

今後、保育士育成の支援制度の創設も、積極的に考えてまいりたいと思っています。

そして、村としての保育料にかわる部分を負担するということは、対応できると思いますが、NPO法人さんでは受け入れが難しいと言っているため、含めて検討を進めてまいりたいと思っています。

*向山牧場の水不足について 水源の調査を

質問 今年、向山牧場では、

8月の長雨の前に水不足になり、沢の水をタンクに集めるなど、水の確保が大変な時期があったそう。昨年水源の水量が少なくなった時期もあったようだが、水不足は雨の降り方による山の保水力や伏流水など、さまざまな要因



向山牧場

が考えられるので、降雨量だけでは判断できない。

降雨量に頼るだけでなく、伏流水を調べて対策を取らないと、今後の牧場運営に影響があるのではないかと。

また、リニア中央新幹線のトンネル掘削地点から離れており、調査の対象になっていないが、関連性が全くないとは言えない。村長はどのようにお考えか。

水源の工事を行う

調査は不要

産業建設課長

向山牧場の水飲み場の水の供給が安定してないというのは事実です。近年の温暖化による気温の上昇、積雪の減少、雪解けの早まり等、春夏の水源量を減ら

している要因と考えられます。

向山牧場の水源は、牧場内の谷地形からわき出る表流水を黒パイで導水しています。

今年は日照りの日が続いた際、表流水が減水し、水が供給されなくなることが数回起きています。幸い牧場にはため池が3か所あり、深刻な水不足とはなっていない状況です。

また、今回の水源対策といまして、水源を1回掘り、湧水の位置を確認し、そこから直接取水する施設計画です。そして、水飲み場の位置の変更も必要により行います。

以上のことから調査する必要はないと思われます。

質問 取水場所を掘削する場合、大地の水脈を傷つけない

よう、地脈、水脈の専門家のご意見も取り入れて、慎重に対応していただきたい。

牧場の水は牛の命綱だ。水が枯れてしまつてからでは、遅いので、早急に水不足の原因を探っていただきたい。

村長 効率的に水が取れるように行う工事ですので、水脈に特別影響があるような種類の工事ではないと思います。

水源の調査といったところまでは現在のところ考えておりません。

質問 今後、枯渇してからでは遅いので、現状の地下水の調査をしていただきたい。

村長 向山牧場の水については絶えず注視をする必要がありますので、状況を見ながら的確に対処させていただきたいと思います。基本的には、雨や雪によって集められた水が主なものと考えています。



議員 齋藤 栄子

***国道152号線について
災害復旧の進捗状況は？**

質問 国道152号は大鹿村と北側の伊那市長谷、南側の飯田市上村を結ぶ観光の重要

な路線だ。昨年7月の豪雨災害以来、地蔵峠の復旧については数年から10年の見通しとの報道もある。現在の復旧状況と、今後の通行止め解除の見通し、進捗状況、飯田市の市道の復旧状況についてお聞きしたい。

**地蔵峠は相当の年月と費用
トンネル化を要望**

産業建設課長 分杭峠から長谷については、昨年7月の豪雨災により路肩が決壊し、現在災害復旧工事を実施しているところだ。5月の豪雨で河川内道路が被災し、11月20日まで工事延期になっていたが、現在9月末開放というところで工事を進めてくれています。(9月17日17時より通行可能になりました)

地蔵峠の復旧の進捗状況については、大鹿側の安康露頭の手前は、災害復旧で10月末を目標に工事を進めてくれています。その先の地蔵峠では地すべり工事を実施しています。あと飯田市側では、県の林務課治山係で治山堰堤3基

と被災した1基を改修中です。その上部に伊那谷総合治山事業所で治山堰堤2基を新設中です。また、来年度に向けて伊那谷総合治山事業所で蛇洞沢の復旧治山の全体計画を今作成中で、これからどうなるかは今年度の計画で分かるかと思っています。

村長 地蔵峠については治山事業、道路復旧事業と合わせますと、相当の年月と費用がかかる見込みです。昨今の気象条件では地蔵峠ルートを永続的に維持管理していくことは、ほとんど不可能なのではないかと考えざるを得ません。復旧を進めていただくのはもちろんですが、同時にトンネル化に向けた要望活動を辛抱強く継続するしかないと考えています。

また、現道の復旧に向け、飯田市と遠山郷に改良促進の期成同盟会がありますので、12月に合同で県の建設部へ要望活動に行く予定です。

質問 落合トンネルが新設される計画だが、もし工事期間中、付近で通行不能が生じた

とき、国道152号、分杭峠の通行に不備はないか。

産業建設課長 分杭峠の改良の関係ですが、2か所のヘアピンカーブを今年調査していただいています。来年度から事業ができるように県の方で段取りをしてくれています。

***リニア事業残土運搬車両
通行について 土曜日の運行中止を求める**

質問 この2年、新型コロナウイルス感染症の蔓延で、観光産業が大きなダメージを受けている。村独自の支援策は維持継続の大きな力になってはいるが、観光産業従事者は経営的にも精神的にも追い詰められているのが現状だ。

共通している懸念事項が県道59号松川インター大鹿線(通称小洪線)のリニア事業による残土運搬車両問題だ。村では200名以上の方々観光産業の恩恵を何らかの形で受けており、観光は大鹿村の経済振興の柱になっている。

小洪線も以前に比べ通行時

間が短縮され、道幅も広がっているが、大型ダンプカーに対しての緊張感が変わらない。カーブの多い道が13キロ、連なる大型ダンプカーを考えたとき、観光業者は観光目的のお客様の選択からこぼれ落ち、旅の候補にすら上がらなくなる致命的な懸念を持っている。

コロナ禍にかつてないほどのダメージを受け、先の見えない中、これから待ち受ける県道59号小洪線を通る1000台を超えるダンプカー運行の脅威に対し、観光業者は経営の計画も希望も頑張れる力さえわいてこない現状を知っていた。以前からJRに求めている土曜日の残土運搬車両の通行中止をいま一度村から求めている。

まずは全線2車線化

請願の結果を踏まえて対応

村長 県道松川インター大鹿線の運搬車両の土曜日の通行止めということですが、観光事業者の皆様だけでなく、一般の村民の皆様からも、全



田代久夫議員

*スマート農業の取り組みについて 水田の無人ヘリ

防除を補助により全村に

質問

農業にもデジタル化の

波が急速に押し寄せる中、人手不足の解消や生産向上への期待は高まっている。スマート農業とはロボット技術や情報通信技術を活用して、省力化、精密化、高品質生産を実現する等を推進している新たな農業のことだが、スマート農業の技術を取り入れた農業の有効性が報告されて、成果を上げている。

また、残土運搬車両を運転される皆さんも、村民や近隣地域の皆様でもありますので、事業者の皆さんとしっかりと調整させていただく中で、同意が得られればということになります。JR東海でも、社会的な事情が変わってくれば対応せざるを得ないのとこので、状況が変わってくる場合もあると思いますので、根気よく要望を続けてまいります。

水田農業は当村の基幹農業で、持続的な農業と言える。10年ぐらい前から水田耕作面積30ヘクタールのうち、8・2ヘクタールをスマート農業の技術を取り入れた無人ヘリで大河原地区を防除し、以前よりもいもち病の被害が減少している。米価が年々下がる中、防除費用の補助をして全

村防除を進め、良質米を生産し、生産者の収入を上げる方策をしてはどうか、村長のお考えを伺いたい。

農家ごとに考え方異なる

意欲ある農業者に支援

村長

スマート農業について

は農林水産省をはじめ、県や地方自治体においても推進の取り組みが始まっておりまして、導入や維持の経費が高額なため、事業費の半額を補助するというような補助制度も整備されつつあります。現状ではまだ、先進的な取り組みということ、設備導入や維持に多額の費用がかかったり、補助金申請にはしっかりとした事業計画など必要で、ある一定規模以上の農家での事業の集約化、高収益化を目指して意欲的に導入するという場合が多いのだろうと思います。小規模農家や高齢化の進む地方での営農支援という分野においても研究や試験的な取り組みが進められている状況であると聞いています。



無人ヘリによる防除

今後大鹿村のような小規模農家が主体となる地域においても導入可能なシステムが開発され、積極的に取り組んでみようという意欲のある農業者の皆さんが出てこられれば、支援していきたいと考えますが、それぞれに求める用途が違っていると思いますし、行政が先に立つて、すべてお膳立てをしてという性質のもので、はないように思いますので、まずは導入に意欲のある皆様から具体的な提言をいただければと思います。

無人ヘリによる防除については農家ごとにいろいろ考え方がありだと思っています。水田耕作をされる皆さんの中でまず合意形成をしていただいて、水田耕作者の皆さん全体

としての要望として上げていただくことが必要と考えます。

質問

農業は水田などの各農

家によって違うと言われたが、鹿塩地区を見ても、一生懸命やっている方がいるが、いもち病が出て、あれでは収入が減るといふか、せっかくやっていただくものが気の毒のように思う。そういうことでも、無人ヘリを使って補助をいただきながら、全水田が病気になる、収穫の上がるような農業をやっていたらいいと思う。

次の質問として、リニア工事JⅤの宿舎や残土置き場の農地は、工事完了後、原状復帰で水田2・3ヘクタール、畑0・3ヘクタールで計2・6ヘクタールが戻される。狭い面積の水田や畑に戻されるより、リニア工事残土で盛土して団地化し、施設園芸ハウスを建て、ITで施肥管理、生育管理、収穫作業、荷造り作業など、スマート農業を今から計画してはどうか。村長のお考えをお伺いし

たい。

村長 リニア工事で将来的に

できる土地を利用してという

ことは、通告書には載っていない

ませんでしたので、そういう

観点での施設園芸ハウスとい

うことについて答弁は用意し

ていませんので、お答えでき

ませんけれども、ＩＴで管理

ということですと、それなり

の費用、初期投資、それから

維持管理の費用はかなり高額

なものがかります。しっか

りそういったことに取り組み

たいという意欲のある方たち

がグループ等を結成していた

だいて、団体として要望して

いただくという形であれば対

応できると思いますが、村の

方から全部用意して、誰かや

る人はいないかというやり方

ではうまくいかないように思

います。やはり積極的な働き

かけをしていただければと思

いますので、そういうことで

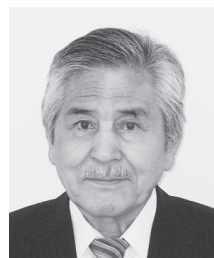
答弁とさせていただきます。

質問 高齢化が進む中、農地

放棄地解消、農業を継続する

対策のためにもスマート農業

に取り組んでいただきたい。



秋山光夫議員

*女高薬師堂と収蔵木神仏の保護について 超法規的措置で保護を

質問 歴史ある大鹿村には各

地に貴重な歴史的文化財があ

るが、女高薬師堂と木神仏像

は特に劣悪な環境にあり、湿

気による損傷が進み、後世に

継承していくことが難しい状

況だ。そんな中、令和2年2

月15日～5月6日、飯田美術

博物館のトピック展示「秋葉

街道」が開催された。お堂と

木神仏、周辺の石仏群もカ

ラー写真で紹介され、多くの

人々に大鹿村の歴史的文化財

を知っていただけたと思う。

大鹿村文化財保護事業補助

金交付要綱では「村内におい

て文化財を保存・管理する自

治会、住民団体又は教育委員

会が適当と認める団体」につ

いて補助金給付の対象とされ

ると明記されている。

現実、女高集落は消滅して

おり、北入二自治会も高齢化で保存管理の継続は不可能だ。しかし、大鹿村の貴重な歴史的文化財は今そこにあり、損傷が日々進んでいる。損傷が少しでも和らげられるよう手立てをご検討いただきたい。

保護管理の方針を立て

団体として要望を

村長 村内の文化財保護とい

うことで、重要性は私も承知

しています。以前からご要望

をいただいております。村の持

性を高めるために必要なこと

と考え、積極的に対応させて

いただきたいと思います。村

指定の文化財だけでなく、指

定以外の物についても保護活

動の経費の10分の8を村で補

助する要綱を9月17日付で定

めたいと考えており、今定例

会の予算審査時に詳細を説明

させていただく予定です。手

続きが煩雑というご指摘につ

いても、申請のしやすい制度

になるよう計らってまいりた

いと思っています。

所有者、地域の皆さんの間



薬師如来座像



女高薬師堂

でしっかりと検討し、保護管理の方針を立てていただきたいと思ひます。村がいくら直しても、放置されて、それを見返る人がいなければ宝の持ち腐れになってしまいます。どう保護管理するのか、価値をどう伝えるのかということをしつかり皆さんで考えていただき、その結果、要望として上げていただけるのであれば、対応できるかと思ひます。

質問 方針を立てて話し合つてと言うが、高齢化で人がいない。その間に仏像は日々傷んでいる。超法規的判断で手を打って、それを止めていただきたい。

村長 今は情報発信の方法も多様化し、村内外でそういうものの価値を認める方はいると思います。少なくとも一人だけのご要望ではなく、しかるべきグループ、人々からという形で要望を上げていただくことが大事かと思ひます。

*土石流災害と洪水災害の対策について 切り捨て間伐の中止を

質問 9月5日、茅野市の下馬沢川で大変な土石流災害が起きた。大鹿でも長雨による道路崩落、崖崩れ、大西山の小規模崩落、土石流も鹿塩柳島で発生、農地水田に大きな被害が出ている。

柳島の土石流周辺を見ると、根のついた倒木、切り捨て間伐材と思われる廃材が多数見られる。森林組合の方は最近では切り捨て間伐は少な

く、搬出間伐が主だと言っているが、多くの沢沿いの斜面には切り捨て間伐材、無数の倒木が折り重なり、土石流の原因となりつつある。

近年、河川中上流部の中州、護岸の法面等に雑木が増加し、豪雨による激流で根こそぎ倒され、そこに土砂が詰まり、流れを変え、護岸を削り、あふれた水は水平方向に、道路、住宅、田畑に流れ込むパターンが多くなっている。

切り捨て間伐を中止し、山間部、沢沿いの倒木をドローン等で調査して、土石流発生の対策、注意に対処していかれたらいいか。

また熱海市では不正盛土による大規模土石流災害が発生し、甚大な被害が起きた。村でも盛土調査を行ったそうだが、いかがだったか。

切捨せざるを得ない状況

間伐材の有効活用も研究

村長 盛土調査については県

等を通じ通達が参りました。

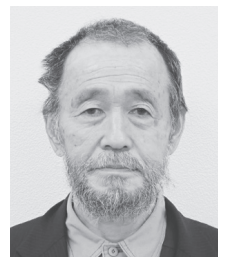
村内で特に不法に盛土されて

いるような所は現状ではなく、リニア関連の盛土も調査をしつかりして、法に則って問題なく行われていることを確認しています。盛土については大丈夫と思っています。

切り捨て間伐については、採算性の問題から間伐した木材を回収し活用するという運用ができなかったわけで、基本的には切り捨て間伐をせざるを得ない状況は変わらないと考えます。

ただ、最近はやはりたびたび豪雨災害が発生し、沢が荒れたり、斜面が崩落したりということが起こっていますので、沢筋で下流域に住宅があるなど危険が想定される場合には、森林環境譲与税の財源を使って、間伐材を回収するようにしたいと考えます。

また、今年度森林資源活用協議会を立ち上げ、資源活用を推進するという方針で、森林譲与税を活用して検討を進めていますので、間伐材の有効活用についても研究を進めたいと考えています。



大倉 寛議員

*みどりの食料システム戦略について 有機栽培25%をどう実現するか

質問 2021年5月に発表

された「みどりの食料システム戦略」において、2050年までに有機栽培面積を全耕地面積の25%にするということだ。現状は全耕地面積の0・5%で、これを2050年までに25%にするというのは、かなり難しい目標だと思う。これ以外にも化学農薬の5割減、化学肥料3割減という目標もこの戦略においては同時に出されている。

これは2020年にEUが打ち出した「農場から食卓へ戦略（Farm to Fork Strategy）」で2030年までに有機栽培面積を25%、農薬50%減、化学肥料2割減とする政策に大きく影響されているものと思う。しかしながら、EUの現在の有機栽培面

積は7%だ。0・5%の日本と7%のEUでは基礎が全然違うので、0・5%の日本でこれから30年でもかなり難しいものだとも思われる。

また、2020年3月に閣議決定された新しい食料農業農村基本計画で、大規模農家を中心にする政策から、多様な経営体、つまり中小から兼業農家（半農半X）も含めた経営体なども、積極的に位置づけるという大きな転換が行っている。

これらの新しい農業政策は現在地球が置かれている環境的な危機が大きなベースにある。この大鹿村においても2050年に有機栽培面積を25%に持つていくためには、村の政策も大きく変わっていかざるを得ないと思う。

第5次総合振興計画に位置づけできれば

村長

大倉議員をはじめ、この村に移住されて農業を営まれる方々を中心として、早くからこうした有機農法が実践されてきたことは承知してい

ますし、世界的な潮流として、さらにはこの国の政策の一環として取り上げられるようになってきたことも承知しています。村としてもしっかりと研究し、推進する必要がありますと考えています。

一方で、従来通りの一般的な農法を継続している農家の皆さんとは、手法の違いや収益性などの問題から軋轢も生じ、魅力的な手法ではあるけれども、なかなか一般に浸透が進まなかった経緯があったと思っています。

国の方針にのっとり有機農業を拡大させるための方策として、例えば大鹿村内の農地を特定して、大池高原一帯の農地を有機農業エリアとして指定し、そこで生産される有機栽培農産物については生産から販売を含めて、大鹿産オーガニックブランドとしての確立を目指していただくとか、そうして目に見える実績を上げていただく中で、一般への浸透を図るといった流れを計画的に作っていかれたらどうかと考えます。

本年度、第5次総合振興計画を策定しますので、内容を検討して、その計画の中に位置づけがきたらよいのではないかと考えています。

*広報の放送について

デジタル音声に違和感あり

質問 同報無線の放送を毎日

聞いているが、何かイントネーションが変で、どうもなじめない。せっかく新しい設備を作ってデジタル化したのに、また肉声に戻すというのは難しいかと思うが、これは地域懇談会で村の方も言っていたので、やはり村の年を取っている方たちは若干あの放送については違和感を持っているものと思う。そのところ村長はいかがお考えか。

微調整を随時行っている

肉声に戻すのは難しい

村長 住民懇談会を通じて大倉議員と同じようなご意見は何人の方からいただきました。気持ちとしては十分理解させていただいています。

現在のような機械音声での

放送に切り替えた理由は、一つには庁内人事の都合上、放送専属の職員をずっとそのまま配置しておくわけにはいかず、何年かに一度は配属替えで移していかなければいけないということがあります。もう一つには、担当職員の負担軽減が挙げられます。以前には放送係の人が変わるたびに、職員の声質によって、あの職員の声は聞こえにくいから変えろとか、女性の声だと高くて聞こえないとか、男性の声だと低すぎて聞こえないとか、いろいろなご意見が村の方に届き、担当職員の心理的プレッシャーがすごくあったという経緯があります。そのような背景もあって、今回文字を打ち込むだけで音声が出るデジタル化という手法にさせていただきました。

5月の懇談会でご意見をいただいた後も、イントネーション等の微調整を随時行っていました。かなり違和感は改善されたのではないかとはいっています。慣れるという部分もあると思いますので、

今しばらくご辛抱いただければと思います。実際に職員が自分の声でしゃべるような体制を取っていくことはなかなか難しいということでご理解いただきたいと思います。

下伊那北部ブロック 町村議会議員研修会

例年、下伊那北部5町村の全議員が集まって研修会を行い、その中で各町村から出された検討課題を話し合い、合

同で県への提言・要望活動を行っています。

今年度は9月29日でしたが、開催の可否を判断した時点では「新型コロナウイルス特別警報Ⅱ」が発出されており、全議員が集まることが困難だったため、正副議長のみが参加する形で行いました。

大鹿村から提出した検討課題は次の2点です。

①主要地方道松川大鹿線の防災事業の促進及び国道152号の通年通行の実施について

▼落合トンネルの早期着工と分杭峠の通年通行、地藏峠のトンネル化を含む改良計画の早期策定、部分改良の実施
②へき地教育の充実とへき地級地指定の維持について

▼小渋線の改良により最寄り駅、総合病院、高校等への距離や通行時間は短縮されているが、リニア工事に伴う大型車両の増加や土砂災害による通行止めの心配など、数値に表れない地域の実情があるため、へき地の級地指定維持を要望するもの

中部伊那町村議会協議会 議員研修会

中部伊那4町村（飯島町、中川村、松川町、大鹿村）でも例年研修会を行い、県要望活動を行っています。こちらは昨年に引き続き、特に上伊那の感染警戒レベルが高かったことから、中止となりました。

議会報告会&懇談会

11月7日(日) 午後1時30分～ 鹿塩地区館 大広間
11月8日(月) 午後7時～ 交流センター 大広間